

塩田跡地のゴミムシ・ガムシ（兵庫県初記録種）

森 正人¹⁾・下野誠之²⁾

筆者らは兵庫県赤穂市において昆虫類の調査を行い、これまで兵庫県内では記録が無かった数種のゴミムシ類、ガムシ類を確認したので報告する。調査を行った場所は赤穂市福浦地区の沿岸部に残存する塩田跡地で、調査日は2021年6月6日及び8月23日、10月16日である。兵庫県での初記録種は以下の6種で、いずれも汽水域や塩田跡地等の塩性湿地性と思われる種である。データの採集年は省略する。

1. ムツモンコミズギワゴミムシ *Tachys plagiatus shimosae* (Tanaka,1956)

42exs.,6-VI, 3exs.,23-VIII, 42exs.,16-X. (図1)

千葉県江戸川河口のGyotokuが基準産地。汽水域に生息する種類で、他の地域では河川の下流域や河口付近、塩田跡地などで得られている。大阪府では淀川下流の人工わんど、岡山県では邑久町錦海塩田跡地で記録されているが、これまで兵庫県からの記録は無かった。当該地での個体数は多く、地面の割れ目や石の下、草の根際などに潜んでいる個体が確認された。

2. ドウイロハマベゴミムシ *Pogonus itoshimaensis* Habu,1954

1ex,23-VIII, 1ex,16-X. (図2)

福岡県糸島が基準産地。塩田跡地のような環境に特有の種類で、全国的に生息地は少なく局地的である。近隣の岡山県邑久町の錦海塩田跡地では多数の個体が見られたが、当該地での個体数は少なかった。

3. ブロンズクビナガゴミムシ *Odacantha metallica* (Fairemaire,1888)

4exs.,6-VI, 10exs.,23-VIII. (図3)

西田(2000)は従来南西諸島に分布する本種が、広島県以西の本州や九州にも分布することを報告し、♂交尾器中央片の形状を図示した。その後、山地(2003)は岡山県邑久町錦海塩田跡地から報告しているが、種名はブロンズクビナガゴミムシ近似種 *Odacantha* sp. とし、種の確定を避けている。今回確認された個体も、これらと同じものと判断される。今後の分類研究を待ちたい。ヨシ原を漕ぎながら採集した。

4. エンデンチビマルガムシ *Paracymus aeneus* (Germar,1824)

40exs.,6-VI, 20exs.,23-VIII. (図4)

本種はMinoshima(2014)により岡山県錦海塩田跡地の個体を日本初記録種として報告したもので、同時に和名も新称された。その後、三宅・岡本(2015)が大分県



図1 ムツモンコミズギワゴミムシ.

図2 ドウイロハマベゴミムシ.

図3 ブロンズクビナガゴミムシ.

図4 エンデンチビマルガムシ.

¹⁾ Masato MORI 環境科学大阪 株式会社 ²⁾ Masayuki SHIMONO 環境科学大阪 株式会社

から, 小林 (2020) が長崎県対馬から, 秋山 (2020) が広島県から記録しているが, 日本における生息地は今のところ多くない. 当該地では浅い水域で多く見られた.

5. オオトゲバゴマフガムシ *Berosus incretus* d'Orchymont, 1937

12exs., 6-VI, 14exs., 23-VIII, 6exs., 16-X. (図5)

本種を含むトゲバゴマフ亜属は分類が混乱しており, 種の分布が十分に把握されていない. 種の同定は新田・吉富 (2012) に依った. ♂の交尾器側片及び中央片は図示された形状によく一致したが, 体長がやや小さいことが気になっている. 最近になって, 境 (2021) は長崎県対馬の海岸に近い不安定な廃田跡湿地から報告している. 中島ほか (2021) は福岡県の初記録 (海岸に近い汽水域の池) について報告し, また本種の九州以北の確実な記録は三重県, 愛媛県, 島根県, 対馬としている. 当該地では浅い水域や湿地環境に多く, 活発に遊泳する姿が確認された.

6. アリアケキイロヒラタガムシ *Enochrus bicolor* (Fabricius, 1792)

38exs., 6-VI, 29exs., 23-VIII, 2exs., 16-X. (図6)

この種が日本で初めて公表されたのは Matsui (1994) が Kumamoto と Tokushima から記載した *E. yukinoae* であるが, これは現在 *bicolor* のシノニムとされている. *bicolor* としての記録は Kawakami・Hayashi (2010) が最初で大阪市南港から報告している. その後, 山地 (2012) が岡山県から, 緋田・渡部 (2020) が鳥取県から, 中島 (2020) が福岡県からと, 徐々に分布解明が進んでいる. いずれの記録も海岸沿いの塩性湿地などから採集されている. 当該地では浅い水域から得られており個体数は多かった. フタイロヒラタガムシは本種の異名.

当該地は赤穂市郊外にある広大な塩田跡地である. この塩田での製塩期間は 1823 年~ 1971 年とされており, 製塩事業が中止されて久しい. その後は他の土地利用がなく放置されたようで, 現在ではヨシ原が広がり, 一部に水面と陸地が見られる (図7). 播州地方沿岸は塩田による製塩業が盛んであったと思われるが, 当該地とはほぼ同じ時期に閉鎖され, 今ではその跡地の多くが, 宅地や工場地, 最近ではメガソーラー発電所へと大きく変貌している. そのような中で, 当該地は非常に貴重な環境として残されている. 確認された種類は少ないが, 塩分濃度の高い地面や水域に特有の種類が生息しており, 兵庫県では過去に記録が無い種類が 6 種も確認された. この環境が消失すると, これらの種類が兵庫県内から消滅する可能性が高い. この環境が出来るだけ長く存続することを期待したい.



図5 オオトゲバゴマフガムシ. 図6 アリアケキイロヒラタガムシ.

謝辞

当該地の環境の存在を教えて頂いた八木剛氏 (兵庫県立人と自然の博物館), アドバイスを頂いた渡部晃平氏 (石川県ふれあい昆虫館) にあつくお礼を申し上げる.

引用文献

- 秋山美文, 2020. 広島県のコヒラタガムシとエンデンチビマルガムシの記録. 月刊むし, (598);54-55.
- 緋田祐太, 渡部晃平, 2020. 鳥取県米子市でアリアケキイロヒラタガムシを採集. SAYABANE, N.S., (38):61.
- Kawakami Y., & M. Hayashi, 2010. A new distributional record of *Enochrus (Lumetus) bicolor* (Coleoptera, Hydrophilidae) from Osaka city, Honshu, Japan. Elytra, (38):25-26.
- 小林 温, 2020. 長崎県対馬からエンデンチビマルガムシの記録. 月刊むし, (592);58.
- Matsui, E., 1994. Three new species of the genus *Enochrus* from Japan and Taiwan (Coleoptera, Hydrophilidae). The Transaction of the Shikoku Entomological Society, 20:215-220.
- Minoshima, Y., 2014. The Identity of the Japanese species of the Genus *Paracymus* Thomson (Coleoptera, Hydrophilidae). Elytra N.S., 4(1):143-149.
- 箕島悠介, 2016. がむしといういきもの - エンデンチビマルガムシの日本からの発見 -. ぎよぶる, (4):46-47.
- 三宅 武, 岡本 潤, 2015. エンデンチビマルガムシ九州に産す. 月刊むし, (531);63.
- 森 正人, 2017. 兵庫県の水生ガムシ類. きべりはむし, 39(2):42-52.
- 森 正人, 2016. 兵庫県のミズギワゴミムシ類. きべりはむし, 39(1):26-35.

- 中島 淳, 2020. 福岡県におけるアリアケキイロヒラタガムシの初記録. SAYABANE, N.S., (39):52.
- 中島 淳, 渡部晃平, 伊藤 昂, 井上大輔, 2021. 福岡県におけるオオトゲバガムシの初記録. SAYABANE, N.S., (42):24-25.
- 西田光康, 2000. 西日本のクビナガゴミムシ属 *Odacantha* について. 北九州の昆虫, 47(2):139-140.
- 新田涼平, 吉富博之, 2012. 日本産ゴマフガムシ属 *Berosus* (コウチュウ目, ガムシ科) の分類学的再検討. SAYABANE, N.S., (7):18-31.
- 境 良朗, 2021. 対馬からオオトゲバゴマフガムシの記録. 月刊むし, (601):57-58.
- 山地 治, 2012. 岡山県産甲虫目録 2012. 401pp. 岡山県環境保全事業団.
- 山地 治, 2003. 岡山県から採集した甲虫類の記録. すずむし, (137):43-46.
- 山地 治, 2000. 錦海塩田跡地のゴミムシ. すずむし, (135):7-10.



図7 赤穂市福浦地区の塩田跡地.